



特集

**埋もれた古文書を発掘し、まちの歴史を探る
葉山郷土史研究会が「神奈川地域社会事業賞」を受賞**



2011.12.3 神奈川地域社会事業賞 表彰式 於横浜 プリースペイナル

葉山郷土史研究会が昨年11月、市民団体の社会貢献をたたえる神奈川新聞・厚生文化事業団主催の「第24回神奈川地域社会事業賞」を受賞しました。町内の旧家などに残る貴重な古文書の発掘と収集、解読に努め、その成果を毎年、「郷土誌葉山」という雑誌にまとめ、葉山の人々の生活文化の歴史を記録し続けている活動が高く評価されたものです。会が誕生して、約10年。「まだ埋もれたままの古文書を少しでも多く発掘・解読して、葉山の郷土史の一端に光を当てていきたい。」今回の受賞を励みに、葉山郷土史研究会の活動はさらに弾みがつきそうです。

誕生

葉山郷土史研究会は、現在、会長をつとめる吉田耕一さんが呼びかけ、これに賛同した関東学院大学教授の矢嶋道文さん、郷土史家の黒田康子さんが中心になり、平成13年6月に発足しました。

吉田さんは元高校教諭で、定年退職後は海釣り三昧の生活を楽しんでいましたが、釣りを通して葉山の美しい自然と接しているうちに、わがまち葉山への愛着が募り、「歴史や生活文化についても深く知りたい」と、郷土史研究会の設立を思い立ったそうです。

発足当初は少人数だった会員も、定年退職組のシニア世代を中心に年々増え、今は総勢29人（男性22、女性7）と、かなりの大所帯になりました。しかし歴史に詳しい専門家は少なく、「大半が素人会員。しかも、なぜか文系より理系の人が圧倒的に多い。そこがうちの会の面白いところなんです」と吉田さんは語ります。

活動

葉山郷土史研究会の活動は、いろいろありますが、発足当初から最も力を入れてきているのが、旧家の蔵などに眠ったままになっている貴重な古文書類を発掘・解読して、町の形成過程や昔の人々の暮らしぶりなどを探求する古文書部会の活動です。



関東学院大学での実習

歴史のまち葉山には、昔、名主だった旧家なども多く現存し、家の蔵などに歴史的に貴重な史料である古文書類が眠っているケースがよくあります。それを主に古文書部会員が手分けして探し出し、収集・保存と解読に努めます。「新築や増改築で旧家が解体されると聞くと、すぐに飛んでいく。そうやって、失われる寸前で発見した貴重な史料がたくさんあります」と会員たち。

郷土史研究会の多くがここに所属し、古文書探しのほか、収集・保存などの仕事を担当。週一回、火曜日には定例会を開き、収集した古文書の解読作業に精力的に取り組みます。そして、活動の成果は「古文書部会報告書」の形で本にまとめ、随時刊行。これまでに出した報告書は、既に4冊を数



えます。

そうした活動の成果を一冊の本にまとめた「郷土誌葉山」の定期発行も、会の主要な活動の一つです。発足から3年後の平成16年に、第一号を刊行。以来、年一回のペースで発行を続けています。昨年春に出した最新号（八号）は、色つきの昔の絵図を多数掲載したため、初めてカラー印刷にしました。郷土誌葉山はB5判サイズで、創刊号では堀内地区の「鏡摺」を特集。これを皮切りに、第二号からは一色、長柄など町内六地区を順番に特集しており、今は二巡目に入っています。また、特集では地名の由来や屋号と家紋、土地の伝説なども紹介。シリーズで創作民話なども掲載し、読み物

としての面白さにも気を配っています。

編集する際には、発掘した古い写真や村絵図を紹介したり、中学生にも配慮したルビ振りをしたりなどのこだわりもあります。ほかにも古道や神社仏閣、庚申塔、地域史話、別荘文化など調査対象は多岐にわたります。次号の発行対象地域を歩いて回ったり、地域の古老を呼んでの学習会や聞き取り取材にも力を入れています。

毎号、2000〜2500部ほどを印刷し、一部800円（八号はカラーのため900円）で、町内や近隣の逗子、鎌倉、横須賀、横浜市の一部書店と町役場の売店などで販売しています。

さらには年2回、5月と11月に、一般町民を対象にした「古文書入門講座」を開催。昨年4月からは月に一度、会員が交代で湘南ビーチFMの番組に出演し、葉山の歴史を分かりやすく解説する活動もしています。

「お宝！発見」

町内での古文書探しは、家の建て替えなどで年々、旧家が減っていき、多くの困難を伴います。しかし、時には思わぬ「お宝」を発見して、喜びに浸ることもあります。

平成17年2月に、堀内の葉山家の蔵の中から見つかった「小田原衆所領役帳」の写本は、文字通りそんな「お宝」の古文書でした。小田原衆所領役帳は、北条早雲に始まる後北条氏の家臣の役高（禄高）などを



詳細に記した帳面のことで、中世の村の状況を知るための第一級の史料です。

この役帳は、葉山家の蔵が取り壊されるとの情報をキャッチした会員がすぐに飛んで行き、蔵にあったフタ付きの木箱の中から偶然、探し当てたものですが、思わぬ「お宝」の発見に、葉山郷土史研究会の面々も感激ひとしおでした。

「今後に向けて」

今回の神奈川地域社会事業賞の受賞は、古文書の発掘と解説から、葉山に暮らす人々の生活や文化の歴史の解明に取り組み、

それを記録し続けている葉山郷土史研究会にとって、大きな励みとなりました。

古文書部会長の浜岡さんは、これを契機に「さらなる古文書の発掘や町内の小字の調査、あるいは約2万枚に膨らんだ古文書のコピーの整理と保存をどうするかなど、やりたいこと、やらなければいけないことが、まだまだ山のようにある。これからもっと頑張らなければ」と抱負を語ります。

その一方で、会員の平均年齢は68歳を超えました。息の長い活動を持続するためにも、若い後継者の育成が急務のようです。

「会員募集」

葉山の歴史や暮らしを探索・研究し、町の特長や良さを知っていただくために、皆さんで協力して「まちづくり」をしてみませんか。

ご入会にあたっては、次の事柄をお願いしています。詳しくはお問合せください。

- 1 月例会、学習会への原則出席
- 2 各活動への積極的参加
- 3 年度初めの年会費納入（3000円）
- 4 『郷土誌葉山』発行時の購入割当て

「古文書部会」入会希望者には、毎年、春と秋に開催している「古文書入門講座」への参加がおすすめです。次の古文書入門講座は5月19日（土）13時30分からです。

問合せ 葉山郷土史研究会

☎ 875-7895

